

レポート課題について

[概要]

提出方法：	1. C棟1階、担当者のレポートボックスに提出。 2. 講義の際に担当者に提出
提出期限：	月曜日講義：6/12、水曜日講義：6/14、木曜日講義：6/15
分量：	1,600字～3,000字
配点：	20点

成績評価のためにレポート試験を行います。聖書について何か一つテーマを決めて、自分で問いを立て、それについて自分で調べて論じて下さい。その際、必ず下記の要領に従って作成して下さい。テーマについては例を示しておきますので、参考にしてください。これらテーマの中から一つを選んで構いませんし、これらとは別に自由に自分でテーマを設定しても構いません。

[要領]

1. 基本

- ・提出先（指導教員など）の指示に従って作成する。 ・提出期限を遵守する。
- ・盗作、剽窃をしない。
 - 盗作＝他人が書いた文章を自分が書いたかに見せかけた偽りの作品
 - 剽窃＝他人が書いた文章を自分が書いたかに見せかけること

※今回のルール

盗作であること、剽窃を含むことが判明した場合、レポートの評点を-20点（学期末の評点から20点が引かれる）とする。

2. 形式

2.1. 書式と構成

- ・日本語で記す。
- ・表紙をつける。
 - 表紙には氏名、学部、学科、学籍番号、レポートの題を記す。
- ・原稿がばらばらにならないようステーブラーなどで留める。
- ・脚注を付ける。 ・参考文献表を付ける。
- ・文章は続けて記す。おかしなところで改行しない。適切な位置で改行し、段落に分けて記す。
- ・改行後は必ず段落の文頭を一文字下げる。

▼ワープロで作成する場合

- ・A4用紙を用いる。

- ・書体は明朝体、文字サイズは11pt、文字色は黒（K=100%）のみとする。
- ・下線強調、斜体を使わない。
- ・文字列の両端を揃える。 ・文書レイアウトを40文字×30行とする。
- ・頁数を付ける。 ・最後に文字数を記す。
- ・1600字以上、3000字以内（本文のみ、脚注、参考文献表含まず）で記す。

▼原稿用紙で作成する場合

- ・400字詰め原稿用紙を用いる。 ・縦書き、横書きは自由に選択してよい。
- ・4枚以上、8枚以内（本文のみ、脚注、参考文献表含まず）で記す。

※今回のルール

書式（書体、文字サイズ、文字色、改行の仕方）がレポート全体で統一されていない場合、-15点とする（評点から15点を引く）。

- ・序論（はじめに）、本論、結論（おわりに）の三部構成とする。
- ・本論は更に区分してもよい。
- ・序論と結論だけを読んで、レポートの内容（問い、論点、結論）が理解できるようにする。

2.2. 本文

- ・必ず論文調で書く。ですます調で書かない。

※今回のルール

文体が全体で統一されていないものは、-10点とする（評点から10点を引く）。

- ・本文中の括弧類は以下の指定に従って用いる。
 - 「 」（一重鉤括弧）→引用、論文名、ウェブサイト名、ビデオなどのタイトル、著者による強調、二重鉤括弧内の二重鉤括弧
 - 『 』（二重鉤括弧）→書名、一重鉤括弧内の一重鉤括弧
 - （ ）（丸括弧）→補足、人物の生没年、アルファベット表記など
 - ” ”（コーテーションマーク）→英語表記においてのみ使用する。
日本語と組み合わせでは用いない。
- その他、< >（山括弧）や []（角括弧）などを用いる場合は、自分で役割を規定して用いる。

2.3. 引用と参照

- ・引用は一重鉤括弧で示す。 ・引用元、参照先は全て脚注に記す。
- ・ただし聖書からの引用や参照については、本文中、引用文後の丸括弧内に新共同訳聖書の略記号を用いて記す。

例：創世記は次のように始まる。「はじめに神は天と地を創造された」（創1.1）。

- ・引用が長くなる場合は、引用元を自分の言葉でまとめ直して参照先として記す。

※今回のルール

一つの引用が300字以上に及んではならない。

- ・本文全体に占める引用文の割合が50%を越えてはならない。
→ これらを遵守しない場合、-15点とする（評点から15点を引く）。
- ・必ず一箇所以上、聖書から引用する。
- ・聖書以外に必ず一冊以上の文献（印刷物）を用いる。
→ これらを遵守しない場合、-5点とする（評点から5点を引く）。

2.4. 脚注

- ・脚注は通し番号で示す。
- ・脚注番号は、引用文や参照文の後ろに半角括弧＋半角数字、または上付きの半角数字で示す。
- ・手書きの場合は、丸括弧＋アラビア数字で示す。
- ・脚注における引用元、参照先は次に指定する仕方で表記する。

2.5. 参考文献表

- ・必ず参考文献表を付ける。
- ・参考文献表には、次に指定する仕方で参考にした文献、ウェブページの全てを記す。

2.6. 文献記法

- ・出版年は西暦で書く。出版年のみを記し、月、日は書かない。
- ・脚注には、著者／編者名、訳者名、書名、出版社、出版年、引用／参照頁数を記す。
- ・それぞれの句点で区切り、最後に読点を付ける。
- ・参考文献表には、著者／編者名、訳者名、書名、出版社、出版年を記す。
- ・それぞれの句点で区切り、最後に読点を付ける。
- ・同じ引用元、参照先からの引用や参照が続く場合は、適宜省略する。

例：

<脚注>

- (1) G.W.F.ヘーゲル、伴博訳、『キリスト教の精神とその運命』、平凡社、1997年、38頁。
- (2) 同書、40頁。
- (3) 西田雅弘、「ベルリン水曜会の啓蒙論議——カント『啓蒙とは何か』（1784年）の歴史的地平」、『下関市立大学論集』第56巻第1号、下関大学、2012年、43～60頁に所収、45頁。
- (4) ヘーゲル、前掲書、33頁参照。
- (5) 同所。
- (6) 西田、前掲書、44頁参照。

<参考文献>

G.W.F.ヘーゲル、伴博訳、『キリスト教の精神とその運命』、平凡社、1997年。
西田雅弘、「ベルリン水曜会の啓蒙論議——カント『啓蒙とは何か』（1784年）の歴史的地平」、
『下関市立大学論集』第56巻第1号、下関大学、2012年、43～60頁に所収。

※外国人の著者名はイニシャルで記してもよい。その場合はピリオドで省略を示す。フルネームで書く場合は、姓名を中黒点で区切る。

例：ゲオルグ・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲル、（以下省略）。

2.7. ウェブページの記法

- ・ウェブページから引用する場合は、ウェブサイトの名称または作成者名、ウェブページのタイトル、URL、閲覧日を記す。
- ・どういったウェブページから引用しているのかが分かるように記すことが重要である。

例：

梅花女子大学、「学長メッセージ」、<http://www.baika.ac.jp/aboutus/message.html>、2015年10月20日。または、長澤修一、「学長メッセージ」（梅花女子大学ウェブサイト）、<http://www.baika.ac.jp/aboutus/message.html>、2015年10月20日閲覧。
ウィキペディア、「キリスト教」、<https://ja.wikipedia.org/wiki/キリスト教>、2015年10月20日閲覧。

3. テーマの例

- 聖書の天地創造物語の特徴について
→聖書以外の世界の始まりに関する物語と比較した場合に浮かび上がる聖書の物語の特徴は何か。
- 天地創造物語と安息日に関する考察
→安息日とは何か。聖書の他の箇所ではどのように記されているか。
- 天地創造物語の資料に関する考察
→二つの天地創造物語はどのような資料に由来するのか。聖書学的に考える。
- アダムとエバの物語における原罪について
→原罪とは何か。それは歴史においてどのように解釈されてきたか。
- アダムとエバの物語における善悪の知識の木と命の木に関する考察
→例えばアニメ「エヴァンゲリオン」はこれらをどのように解釈しているか。
- ノアの洪水とメソポタミアの洪水伝説
→ノアの洪水物語はどのような歴史的根拠をもっているのか。
- 映画「ノア——約束の舟」と聖書の物語との比較考察
→映画は聖書をどのように解釈しているか。
- バベルの塔の物語が「天空の城ラピュタ」に与えた影響について
→「天空の城ラピュタ」はバベルの塔の物語をどのように解釈しているか。
- アブラハム物語について
→アブラハムとはどのような人物か。聖書にどのように描かれているか。
- ヨセフ物語について
→出エジプト記1章においてなぜイスラエル人はエジプトにいたのか。創37-50を読むか、または映画「ヨセフ物語～夢の力」を鑑賞し、その内容をまとめる。
- 出エジプトは実際にあったのか。
→出エジプトの出来事が実際にあったかどうかに関する考古学的調査はどうなっているか。
- ユダヤ教、過ぎ越し祭の起源
→過ぎ越し祭とはどのような祭りか。聖書にどのように記されているか。
- 出エジプト記に登場するマナとは何か。
→天から降ってくるパン、マナとは何か？ この物語は福音書にどのような影響を与えているか。
- 金の子牛事件に関する一考察
→出32に記された金の子牛事件とは何か。
- バビロン捕囚とはどのような出来事であったか。
→列下25、歴下36、エレ29、32、39、52などを参考にし、バビロン捕囚について調べる。